



➤ 2月20日(火)「駐日韓国文化院」見学 ～韓国派遣団 事前研修～

2月20日、韓国派遣の事前研修の一環として、四ツ谷にある「駐日韓国文化院」を見学しました。当施設は、韓国文化の過去と現在、そして未来を伝え、理解を深められる施設として、長年にわたって韓国文化を発信する役割を担っています。

韓国に関する「図書映像資料室」や韓国の伝統建築様式と暮らしの空間を再現した伝統生活体験空間「サランバン」のほか、展示室「ギャラリーMI」、多目的ホール「ハンマダンホール / ハンナレホール」、韓国庭園などの施設があります。

韓国文化を紹介するフロアーがあり、K-POPや韓国映画の紹介、最新のゲームなど韓国のサブカルチャーに触れることができる空間もありました。図書室にはさまざまな資料があります。距離的にはとても近い国でありながら、日本とはかなり異なる文化的背景があることに驚く一方で、どこかに共通する何かを強く感じる部分もありました。今回の見学が、韓国についての知見を深めるきっかけとなったと思います。

➤ 3月6日(火) 「駐日韓国文化院」講義

2月20日の見学に引き続き、3月6日(木)に駐日韓国文化院で韓国文化についてのレクチャーを受けました。講師の先生から住居や服装、食習慣など幅広いトピックについてお話をいただきました。

まず、住居については「オンドル」についての説明をいただきました。「オンドル」とはいわば床暖房のようなものですが、薪で火を起し、その熱気を床の下に流し込んで暖を取るシステムです。例えばソウルでは、寒い日は-15度にもなるそうで、こういったシステムが必要であったようです。今では薪ではなくガスに取って変わったようですが、基本的な作りは変わっていないようです。また、暑い季節のために「マル」という部屋があり、ここは暑い時期には戸を開けっ放しにしておいて、家全体の風通しをよくするそうです。この部屋には「オンドル」はなく、冬の時期は使わないそうです。気候に合わせたさまざまな知恵が文化として根づいています。

次に韓服(ハンボク)についてのお話がありました。韓服の最大の特徴はその曲線だそうです。実際に見せていただきましたが、確かに独特な曲線が用いられています。足袋でさえ、日本のそれとは異なり、独特な曲線をもっています。韓服には有名なチャマチョゴリがありますが、チャマチョゴリは女性用で、男性用はバジチョゴリというそうです。装身具等の説明もありましたが、宮廷文化と密接な関係があり、位を意味するものでもあったそうです。

食習慣についても興味深い話をお聞きしました。食については「医食同源」の概念があり、健康と直結するものであるようです。韓国語の挨拶に「ごはんは食べましたか?」というものがあるようです。韓国には食事を非常に大切にしている考え方があると思われまます。また色合いにも配慮があり、料理に五色を用意することで幸福を願うそうです。

またキムチの話題も興味深いものでした。昔はチャンドクと呼ばれる大きな甕で作っていたようですが、最近では冷蔵庫で保存しておくようになったそうです。そのため、韓国には通常の冷蔵庫の他に、キムチ冷蔵庫があるそうです。一般に広く普及しているとのこと。ちなみに食卓にはお箸とスプーンが並びますが、ご飯を食べる時はスプーンを使うようにというお話がありました。また、お箸は横置きではなく縦置きで置かれています。

最後に靴の脱ぎ方です。韓国文化院には韓国式の住居を再現したものがありますが、縁側から住居に入る際、日比谷生の多くが靴を反対にして中に入りました。日本では靴の向きを反対にするのが礼儀ですね。つまり、帰る際にすぐ履ける状態にしているわけです。ところが、韓国ではそれは「早く帰りたい」という意味になってしまうようで、靴はそのままの向きにしておくそうです。



短い時間でしたが、実にさまざまなことについて学ぶことができました。実際の交流でも役立つことと思います。

➤ 3月6日（火） 読売新聞社訪問 ジャーナリスト佐藤伸氏 講演会

3月6日（火）読売新聞東京本社で見学および講義を受けました。本社には新聞の歴史が学べるコーナーがあり、実際の輪転機の展示などもあります。また、保育施設や薬局などもあり、労働環境が整備されていることにも驚かされました。

厳重なセキュリティを通過して、本社内のオフィスに入り、実際に編集活動を行っている雰囲気を感じました。残念ながら撮影は不可なので写真はありませんが、3フロア吹き抜けの広大な空間でした。さまざまな部署で多くの人々が働いていました。

見学中の日比谷生からの質問に、「『号外版』は購読契約者でもなくてももらうことができるが、どのように採算を考えていらっしゃるのでしょうか？」というものがありませんが、3フロア吹き抜けの広大な空間でした。さまざまな部署で多くの人々が働いていました。

見学中の日比谷生からの質問に、「『号外版』は購読契約者でもなくてももらうことができるが、どのように採算を考えていらっしゃるのでしょうか？」というものがありませんが、3フロア吹き抜けの広大な空間でした。さまざまな部署で多くの人々が働いていました。

見学中の日比谷生からの質問に、「『号外版』は購読契約者でもなくてももらうことができるが、どのように採算を考えていらっしゃるのでしょうか？」というものがありませんが、3フロア吹き抜けの広大な空間でした。さまざまな部署で多くの人々が働いていました。

見学中の日比谷生からの質問に、「『号外版』は購読契約者でもなくてももらうことができるが、どのように採算を考えていらっしゃるのでしょうか？」というものがありませんが、3フロア吹き抜けの広大な空間でした。さまざまな部署で多くの人々が働いていました。

見学中の日比谷生からの質問に、「『号外版』は購読契約者でもなくてももらうことができるが、どのように採算を考えていらっしゃるのでしょうか？」というものがありませんが、3フロア吹き抜けの広大な空間でした。さまざまな部署で多くの人々が働いていました。

見学中の日比谷生からの質問に、「『号外版』は購読契約者でもなくてももらうことができるが、どのように採算を考えていらっしゃるのでしょうか？」というものがありませんが、3フロア吹き抜けの広大な空間でした。さまざまな部署で多くの人々が働いていました。